

2013年7月13日【土】→10月14日【月・祝】

横浜都市発展記念館

Museum of Yokohama Urban History

開館時間：9:30～17:00（入館は16:30まで）

休館日：毎週月曜日および7/16、9/17、9/24

（ただし、7/15、9/16、9/23、10/14は開館）

入館料：一般300円、小・中学生150円

この料金で当館常設展および横浜ユーラシア文化館もご覧いただけます。

毎週土曜日、小・中学生と高校生は無料です。

関東大震災
90周年

開館10周年記念特別展

関東大震災と横浜

廃墟から復興まで

主催：横浜都市発展記念館 共催：横浜開港資料館／横浜市教育委員会

協力：横浜市史資料室

後援：朝日新聞横浜総局／神奈川新聞社／毎日新聞横浜支局／

読売新聞東京本社横浜支局／NHK横浜放送局／tvk



関東大震災と横浜 廃墟から復興まで

開港から60年が経ち、都市化が大きく進んでいた横浜は、大正12(1923)年9月1日の関東大震災によって、一日にして瓦礫の山と化しました。壊滅状態に陥った横浜は、その後の震災復興事業のなかで、現在につながる新しい都市の骨格を形づくっていきます。本展示では、未曾有の災害によって廃墟と化した横浜が、困難を乗り越えて復興を遂げていくまでの激動の10年間をたどります。

[展示構成]

- I プロローグ 開港60年を迎えた横浜
- II 関東大震災の衝撃
- III 惨状を伝えるメディア
- IV 救護と警備
- V 復興のまちづくり
- VI 復興成る
- VII エピローグ 現代にみる震災遺跡

[関連企画]

◎展示解説

展示担当が見どころを解説します。参加費無料(入館券が必要です)
 日時: 7月14日(日)、28日(日)、9月8日(日)、10月6日(日)
 各回14時~(30分程度)

◎ギャラリー展「横浜市の防災対策」

協力: 横浜市総務局危機管理室 会場: 当館1階ギャラリー(入場無料)
 現在の横浜市の防災対策についてパネルで紹介します。

◎写真展「3.11から今 復興への願い」

【前期】7月13日(土)~8月25日(日)
 阿部美香子「だけど僕らはくじけない~大槌町から~」
 【後期】8月27日(火)~10月14日(月・祝)
 大塚敦子「いつか帰りたいぼくのふるさと~福島第一原発20キロ圏内から来たねこ~」
 会場: 当館1階旧第一玄関(入場無料) 企画コーディネイト: 菊池由紀子

◎歴史散歩「関東大震災を歩く」

共催: NPO法人横浜シティガイド協会 協力: 横浜開港資料館/横浜市史資料室
 当館での展示解説ののち、関東大震災にまつわる史跡をガイドの案内で巡ります。

日時: ①山下・山手コース 9月16日(月・祝)、9月21日(土)
 ②南区コース 9月23日(月・祝)、9月28日(土)

集合: 当館1階ギャラリーに9時30分集合(12時30分頃 現地解散予定)
 参加費: 各回保険代含む500円(別途、特別展観覧料300円)
 定員: 各回30名

申込方法: 往復はがきに参加希望日、住所、氏名、電話番号を記入して、下記住所宛にお送りください。※当館での受付はしておりません。

受付: 〒231-0023 横浜市中区山下町15 横浜マリンタワー内
 NPO法人 横浜シティガイド協会
 Tel & Fax: 045-228-7678(土日祝日を除く毎日10時~16時)

◎夏祭り(全館無料)

地震の揺れを体験してみよう! その他、イベント盛りだくさん!

日程: 8月17日(土)・18日(日)

共催: 横浜ユーラシア文化館

同時開催中

◎横浜開港資料館「被災者が語る関東大震災」

- 一般200円、小・中学生100円
- お得な両館共通割引入館券は、一般400円、小・中学生200円

◎横浜市史資料室「レンズがとらえた震災復興 1923~1929」

- 入場無料



①



②



③

- ①ポスター「ヨコハマ復興 光は働く者乃に 頭上に」 当館所蔵
- ②被災した横浜中央電話局 大正12(1923)年 前川謙三撮影・横浜開港資料館所蔵
- ③造成中の山下公園 『復興公園写真』(当館所蔵)より
- ④バラック電車 「横浜納札浜芝連震災追善千社札」(横浜開港資料館所蔵)より



④

アクセス

- 東急東横・みなとみらい線 日本大通り駅(3番出口)0分
- 横浜市営地下鉄ブルーライン 関内駅(1番出口)から徒歩約10分
- JR京浜東北・根岸線関内駅(南口)から徒歩約10分
- 横浜市営バス「日本大通り駅県庁前」から徒歩1分

